

# 「日本一の暮らしやすさ」実感できる予算編成を！

平和と民主主義・暮らしを守る熊本市民連絡会 が来年度予算について要望・交渉

「平和と民主主義・暮らしを守る熊本市民連絡会」は、11月19日、来年度の予算編成にあたり、暮らし・福祉・教育などの充実を求め、要望を行いました。自治体の本来の目的は「住民福祉の増進」です。再開発などハコモノ無駄遣いは改め、命暮らし優先の市政が求められます。



## 介護保険の負担軽減、 十分な介護サービスの提供を

保険料がどんどん値上げされ、十分な介護サービスが使えません。保険料の負担軽減や、滞納者への機械的な給付抑制を行わないこと、実態に即した減免制度の実施などを要望しました。

## 生活保護の適正な運用、 生活困窮者への支援を

「つなぎ資金」である生活福祉資金・福祉金庫の速やかな貸し付けや、ケースワーカーの資質向上、必要な場合の車の使用など、適切な生活保護と困窮者への支援が要望されました。また、災害被災者への義捐金について収入認定しないことも求めました。

## 障害者へのタクシー券支給と 重度心身医療の現物給付を！

障害者の移動に「タクシー券の支給」は切実です。また、重身医療については、償還払いでは入院時の負担が特に大きくなるため、現物給付の実施を強く要望されました。

特定健診・がん検診の無料化や後期高齢者への受診券の送付が要望されました。  
保育分野では、認可外保育所への支援拡充や新保育システムへの移行はしないことなどが要望されました。



## 市営住宅の修繕・改修を！

老朽化の進む市営住宅居住者から、床はフワフワ、シャワーが出ないなど切実な声がありました。遅れている市営住宅の修繕・改修を速やかに行うよう要望しました。

## 住宅リフォーム助成の実施を！

宇土市では商店街活性と合わせた住宅リフォーム助成制度が実施されています。熊本市での速やかな制度創設を要望しました。

## 市道整備の遅れ、予算の拡充を

市道改修が遅れています。中には年度を越える時もあります。傷んだ道路で高齢者の事故がないよう、予算拡充や速やかな対応を求めました。

## 30人学級の実施を！

いじめや不登校、さまざまな問題への丁寧な対応や行き届いた指導を実施するため、現行の35人学級をさらに拡充し、30人学級実施が要望されました。

## 全学校で図書整備100%達成と 学校図書司書の処遇改善を！

学校図書は整備目標を100%達成したと報告されていますが、学校ごとにする未整備が残されています。すべての学校で100%達成すること、5時間勤務の嘱託となっている学校図書司書の処遇改善も求められました。

**\*参加者から、切実な要求が多数出されました。引き続き、実現に取り組んでいきます。**

## 【控室から】 政治を変えるチャンス

上野 みえこ

国会が解散し、総選挙の日程も決まりました。しばしお休みしていた「街頭宣伝」を始めました。早朝の訴えに、激励の声をいただくと本当に元気になります。  
「声が聞こえたから、走ってきました」そう言って、朝の忙しい時間、家事の手を止めて、駆けつけてくださる方の期待に応えられるよう、訴えを大きく広げていきたいと思えます。

争点は、どれも国民の暮らし、台所に直結しています。私たち日本共産党は、消費税増税やTPP交渉参加にきっぱり反対、原発は即時ゼロにと、国民の世論に応える日本改革のビジョンを示しています。期待外れの民主党にも、前回総選挙で厳しい審判を受けた自民公明にも、第3極と言いつつながら離合集散を繰り返す同レベルの上を走っている新政党にも、国民の願いは託せません。

私たちは市議会で、市政のムダ使いをただし、国保や介護、生活保護、子育て支援や教育の充実など、住民の声を議会に届けてきました。今度は、その大本にある国の政治を大きく転換するチャンスです。「国民が主人公」で「提案し、行動する」

私たちの出番です！

## 日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまだか

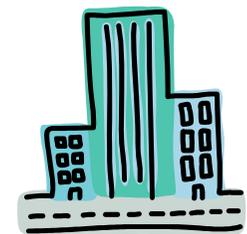
熊本市中央区手取本町1-1 議会棟 ホーム：<http://www.jcp-kumamoto.com/>

NO. 827  
2012年11月25日  
電話 328-2656  
FAX 359-5047

メール：[kumamsu@gamma.ocn.ne.jp](mailto:kumamsu@gamma.ocn.ne.jp)

大型の「ハコモノ」をどんどん建てる時代ではありません。

## まだ使える「産業文化会館」は、直ちに再開しましょう！



この10年間で「再開発」は変貌・・・行き詰まった「再開発」に自治体が参加し、多額の税金を投入

11月17日「産業文化会館の再開を求める会」で学習会が開かれ、区画整理・再開発全国連絡会の遠藤哲人事務局長が、全国で行き詰まる「再開発」の実態を報告。

「産業文化会館」を壊すのは「もったいない！」

「市役所を壊す」となれば、市民は大騒ぎするのではないのでしょうか。産業文化会館は、市役所本庁舎より1年遅れてできた建物です。また、産業文化会館は、日本の高い技術水準による固練りコンクリートの頑丈な建物です。まだまだ十分使えます。「壊すのはもったいない」と、市民の声が上がるのは、当然です。

産業文化会館は、農業立県を目指す熊本の農業を振興させ、2次・3次産業とも連携させて熊本らしい文化の域にまで高め発信し続けようとして「産業文化会館」と命名され、スタートしました。今こそ、その目的が必要とされています。市の中心部にあり、利便性がよく、安い利用料で使用できる会館として、その役割を發揮すべき時です。

以上のような、産業文化会館を取り壊すことの問題点が、会代表の池田さんから話されました。

なるだけ大きな再開発ビルを建て、つくったビルの床を自治体が高く買って税金を投入し、公益施設として「図書館」や「文化ホール」をつくります。自治体の税金投入によって「再開発」は成り立っています。

今や再開発は、高層ビル建設によるゼネコンや大手不動産業者の「仕事興し」と、遠藤氏は指摘します。

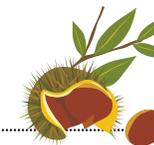
**企業が主導する「再開発事業」に  
住民の視点はありません**

再開発の事業計画をつくることから、事業提案方式で企業に提案させるため、企業に都合の良い開発になります。特に、マンション業者が参加すると、高層化され、保留床が増えます。しかし、儲けているのはマンション業者だけです。

東京のコンサルが、熊本の開発計画をつくるのです。その計画に「住民」の視点はありません。

**熊本駅前東A地区「森都心プラザ」  
儲けているのは民間事業者**

総事業費211億円の「森都心プラザ」は、市の施設の半分程度の安い値段で再開発ビルの床を買った森ビル中心の民間事業者が、マンションの分譲で大儲けです。一方で、権利者棟の1階は「空き家」状態です。誰のための「再開発」でしょうか。



**【参加者の声】**

- ・音楽団体に入っていますが、落語をやるホールがなくて困っています。700席の産業文化会館は最適です。産文が閉鎖して、中心街が沈没している。ところが、中心街に場外車券売場までつくろうとしている。文化の薫る街になってほしい。産文の再開を望みます。
- ・民謡を習っているが、発表会の会場がなくて、富合まで行きました。街の中心のあんなにいいところにホールがあるのに、使えないなんて。
- ・交通センターの隣という便利なところにあるので、栄養士会でも県の集会をやっていた。今は、不便な健軍の施設を利用しています。また、昭和の建物としても、優れていると思います。ぜひ利用したい。

**産業文化会館の再開に**

**声を集めましょう！**

産業文化会館は十分使えます。再開を求める声は根強くあります。その声を広げ、再開に向けて取り組んでいきましょう。

